

令和2年度「市長と学長との懇談会特別フォーラム」 議事要旨（意見交換部分）

（神戸国際大学）

- ・令和2年6月よりハイブリット授業を実施し、現在もハイブリット講義を続けているが、教員がオンライン講義を選択して大学に登校せず、実質的には、オンライン講義になっていることが多い。APU（立命館アジア太平洋大学）では教員が学校に登校して講義するよう、どのように取り組みをされたのか。

（出口氏）

- ・APUでも同じ悩みを抱えている。APUには大学評議会という最高意思決定機関があるが、ここで決まったことでも、自分は従わないという先生もいる。教授会等で丁寧に説明して少しずつ理解してもらえない。

（神戸情報大学院大学）

- ・本学は学生の過半数が海外からの学生で、この5年間で33か国から約200名の学生が入学している。
- ・春入学の講義は日本語で、秋入学の講義は英語で行うため、秋入学の留学生は日本語をマスターしないで卒業することも多く、日本企業への就職が難しいと考えていたが、最近は、日本の企業も日本語の習熟度が十分でない英語圏の学生を採用するケースが増えてきて、いい傾向と考えている。
- ・APUの場合、日本語能力が低い留学生の方に対する、日本企業の状況についてどのように感じているか。

（出口氏）

- ・日本の文化を学んで帰ってほしい、そして文化は言葉であるという理念のもと、APUでは組織的に徹底した日本語教育を行っており、日本語の単位を124単位中16単位取らないと卒業できないという制約もあるため、N1、N2レベルには達しなくとも（漢字がネック）、ほとんどの学生は日常会話に支障がないレベルまで熟達する。
- ・そのため、ほとんどの学生が日本企業の日本語での面接に対応できるレベルとなっている。

（兵庫県立大学）

- ・APUには約90か国から留学生が来ており、日本語教育も徹底的にされているということで、入学してくる18歳学生にある程度のレベルが必要になると思うが、入試はどのようにされているかお聞きしたい。

（出口氏）

- ・学生の質のレベルについて、元々、APUに来る学生はハーバードやオックスブリッジなどから奨学金がもらえない学生がバイパスできており、（日本人学生より）外国人の学生の方が、はるかにレベルが高いと認識している。入学者の平均スコアはTOEFLiBTで85を超える。
- ・学生は世界にある2万5千の大学を全て調べることはせず、いわゆるミシュランの3星のような、国際認証で検索をかける。3つの国際認証「①AACSB、②TedQual（テッドコール）、③

AMBA（アンバー）」を保持する APU が検索で引っ掛かり、欧米の有名大学と比べると 3 分の 1、4 分の 1 の学費であるため、親も了承する。

- ・海外から優秀な学生を集めるためには、「秋入学」「英語での講義」に加えて「国際認証」が大きいと思う。
- ・入試については、全てオンラインで実施している。ビデオ会議での面談と資料を提出してもらい、成績をきっちり確認している。20 年間の入試ノウハウがあり、諸先輩方の努力のおかげであると感謝している。
- ・また、APU では同窓会（卒業生）の組織が強く 38 もあり、そのうち 28 は海外にある。海外の同窓会組織も学生募集に協力してくれている。

【補足】

○AACSB（The Association to Advance Collegiate Schools of Business）

1916 年にアメリカで設立。マネジメント教育を推進する世界で最も権威あるビジネススクール認証機関の一つ。

○TedQual（国連世界観光機関（UNWTO）の国際認証）

世界の観光学の教育・研究をリードする教育機関に与えられる国際的な認証評価。

○AMBA（the Association of MBAs）

1967 年に英国ロンドンで設立。世界で最も権威あるマネジメント教育の認証機関の一つ。

（神戸学院大学）

- ・留学生の送り出し対応で工夫された点をお聞きしたい。
- ・また、地域との連携について、別府では地域住民と連携して、コロナ渦で困窮する学生へのサポートを行ったとのことだが、別府・大分の中での連携・情報交換の動きを教えてください。

（出口氏）

- ・留学生の送り出しについて、APU では 160 程度の大学と留学協定があるが、現在はほとんど送り出せていない。アジア圏で時差が小さい大学とはオンラインで学生の交流を行うなど、工夫をしているが、留学の本当の意味は、違う環境に肉体を置くことであり、オンラインには限界がある。コロナの収束を待つ以外に、根本的な解決は難しい。
- ・地域との連携について、別府は約 11 万の人口で、1 万弱の学生がおり、また、高齢化も進んでいるため、若者人口の半分以上が学生という状況。大学と地域との連携は強いが、町が小さいので、相対的に学生の割合が高くなるという特殊要因が大きいと思う。
- ・僕は、学長に就任してから、民官学のリンケージのハブになると言い続けている。民間は利益の追求が、役所は公共財や公共サービスの提供が目的だが、そのどちらでもない大学がハブになることで様々なことができる。
- ・民官学連携の例としては、APU が間に入って、NHK と地元民放とで 3 者協定を締結し、APU の留学生が大分の魅力を発信する番組を去年の 4 月から放送した。また、APU にはイスラム圏の学生がたくさんいるが、地元のフンドーキンの醤油の 100 年メーカーと提携して、ムスリムも安心して食べることができるハラルの醤油を作ったりもした。
- ・地域が衰退して大学が元気であるわけがないと考えており、別府や大分県に元気がなくなれ

ば、APU もダメになる。地域に APU をもっともっと活用してもらい、大学としてできることは何でもやりたいと考えている。

(神戸学院大学)

- ・神戸市では市長の声かけでこのような会を毎年実施し、様々な議論を 20 年間積み重ねてきた。各大学も神戸の発展と大学の生き残りを意識し、努力しているが、もう一段のステージアップが必要である。
- ・これは、市長へのお願いとなるが、20 を超える大中小で様々な特徴が揃っている大学が、その特徴を出しながら神戸の発展に寄与するために、産官学がまとまっていく必要があると考えており、様々な意見を戦わせながら前に進んで行くための拠点を整備していただければ、大変ありがたい。
- ・拠点が整備されれば、我々としてもワンランクアップして、地域の発展のため、学生のために努力したい。また、産業界との結びつきと様々なご意見をいただくことも可能になる。神戸市に拠点設置をお願いする。

(神戸国際大学)

- ・市長と学長との懇談会は 20 年の歴史があり、それなりの役割を果たしてきたと思うが、出口先生が強調されたとおり、我々も議論だけでなく、行動することが必要であると考えており、20 余りの大学が神戸市と一緒にやっていくための、活性化の拠点、知の拠点、情報発信の拠点への取り組みを進めていく必要がある。
- ・大学コンソーシアム京都にもよく足を運んでおり、また、西宮市にもそういったものがあると来ている。神戸市でのコンソーシアムの立ち上げについて打ち出していただければ、我々もそれにのって、大学都市神戸を作るために努力する覚悟はできている。是非、検討いただきたい。

(甲南大学)

- ・神戸学院大学や神戸国際大学からも話があったが、産官学の連携は非常に重要であり、アフターコロナの時代に大学が担うであろう新しいアイデアやビジネスモデルの提案は、大学だけでは難しい。
- ・出口先生からも「大学は場所のビジネスである」という話があったが、その通りで、大学と産業界、地方公共団体が意見を戦わせることができる場、ブロードな交流から始められる場があれば非常にありがたい。
- ・産官学連携のハブを構築できるようなプラットフォームがあればと考えているので、是非構築をお願いしたい。

(神戸芸術工科大学)

- ・現在、本学の留学生たちは母国でオンライン授業を受けており、オンライン授業は日常になったと思うが、出口先生のおっしゃった人間関係の直接の仕組みをどのように保障していくかが教育の問題で、教育の質をどう保証するか、学び方をどう支援するか、どのように達成感を獲

得してもらうか、そして何よりも最適な解決を引き出す自己調整力が一番大きな課題になると考えている。

- ・ APU では、入学試験の中でユニークな試験問題（フラワーチャート）を実施されており、現在のオンラインの教育を含めて気づいた、学びの目標や学び方の達成感を自己調整しながら獲得するという入口をしっかりと見ておられるのかなと感心していた。

(出口氏)

- ・ フラワーチャートについて、これは APU の独創ではなく、探求力、問を立てる力は OECD の方針でもあり、文科省が探求力や問を立てる力と言っているのと同じことを我々もやっている。1 年間学内で議論し、新しい入試方式に切り替えた。来年の入学者が初めてこの試験を受けて入ってくるので、最低 4 年間はみないと効果はわからないと考えている。
- ・ また、APU は学生に教えるという発想がない。最近の脳科学や心理学の結果によると、どれだけ素晴らしい講義をしても、本人に興味がなければ、単位を取った瞬間にほとんど忘れる。APU は何かを教える場ではなく、学生がこの 4 年間で、人生でやりたいことやチャレンジしたいことを見つける場所であってほしいと願っており、教職員はそれをバックアップするという基本的な考えを徹底している。

(神戸芸術工科大学)

- ・ 出口先生から民官学のリンケージというお話があったが、私は「民産官学」というキーワードを提唱している
- ・ 「民」「産」「官」「学」の 4 つがどう連携するかというのは、自主的にフィールドを獲得しないと発展しない。誰かから与えられて始まるのではなく、大学が地域社会の課題を発見する、気づく力が大切である。
- ・ 出口先生のお話を聞き、神戸は恵まれていると感じた。地域社会との連携という面では、各大学が独自に様々な実験的な取り組みをしている。また、With コロナ時代の私たちにとって、大学間の連携も非常に重要であると気づかされた。

(久元市長・コメント)

- ・ 大学あるいは学生と地域の連携は非常に重要で、別府市は APU の力もあり非常に上手く連携が出来ているが、神戸市も今までの積み重ねと、with コロナ社会に対応した新しい試みもおこなっている。
- ・ 冒頭でもご紹介したが、「KOBE 学生地域貢献スクラム」では地域の活動に学生が参画することで、地域の活動が活発になるだけでなく、学生の経済支援にもなるので、学生にはぜひこの制度を活用してほしい。
- ・ もう一つ、「KOBE 応援プラットフォーム」という市民と企業・NPO 等のニーズをマッチングする制度がある。簡単に利用可能なので、学生や大学の先生にも利用してもらい、地域との連携を深めてほしい。
- ・ 神戸市内の大学でコンソーシアムを組織する場合、既に存在する兵庫県のコンソーシアムとの調整をする必要がある。
- ・ with コロナの時代がしばらく続くが、今後も産官学民で連携し、この危機を乗り越えるため、引き続き大学に協力をお願いしたい。